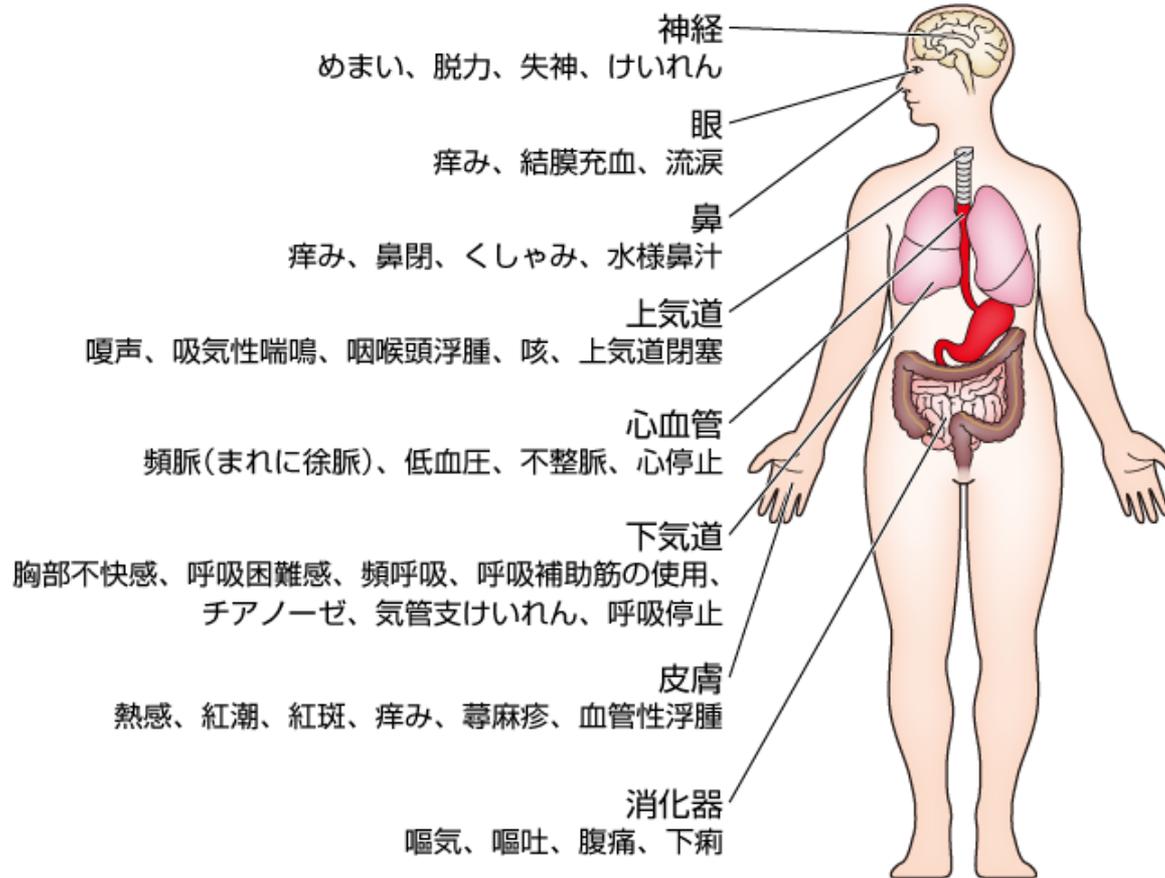


アナフィラキシーの症状



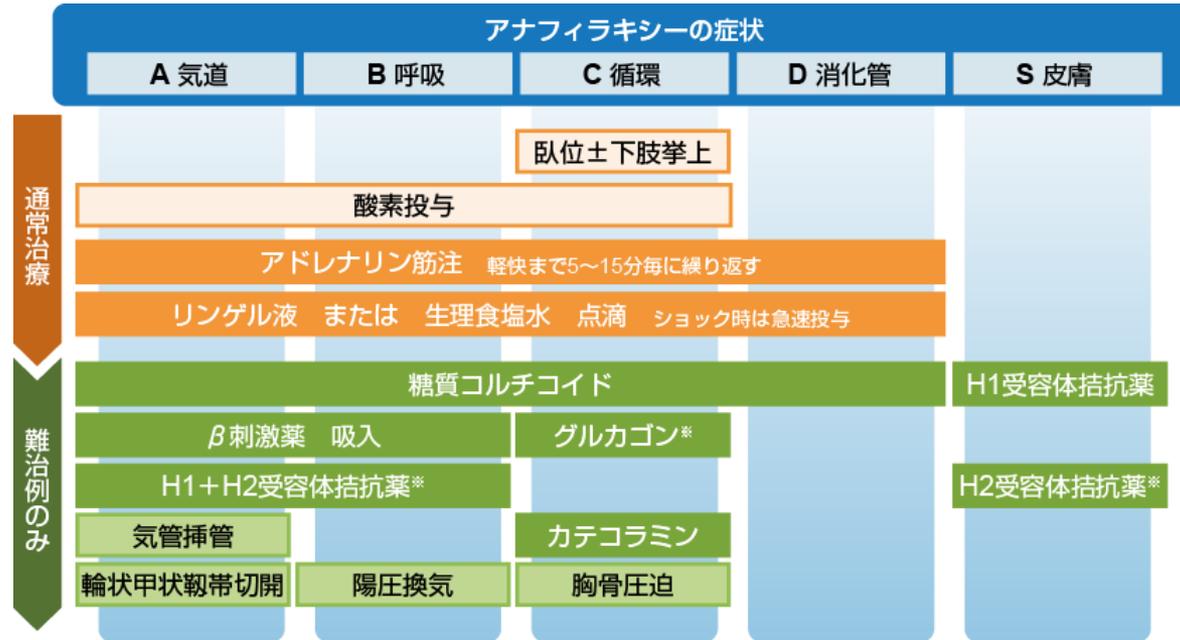
リファレンス:

即時型アレルギーの重症度分類(アナフィラキシーに限らない)

重症度	症 状
軽 症	〈皮膚症状のみ〉 紅斑、蕁麻疹 眼窩周囲の浮腫 血管性浮腫
中等症	〈呼吸、循環、消化管症状のあるもの〉 息切れ 喘息(stridor/wheeze) 喉頭や胸部の詰まる感覚 めまい(前失神) 冷汗 嘔気・嘔吐、腹痛
重 症	〈低酸素、低血圧、神経症状のあるもの〉 チアノーゼ SpO ₂ ≤ 92% 低血圧(成人で収縮期血圧 < 90mmHg) 混乱

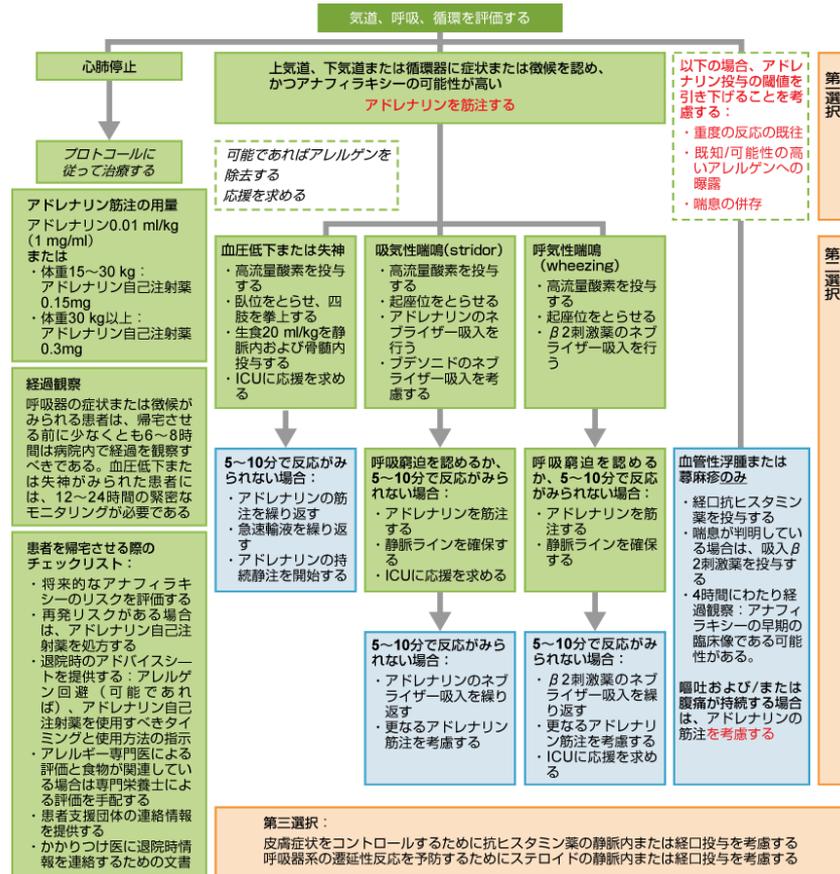
リファレンス: Clinical features and severity grading of anaphylaxis. / 雑誌名: J Allergy Clin Immunol. 2004 Aug;114(2):371-6. doi: 10.1016/j.jaci.2004.04.029. / PMID 15316518

アナフィラキシーの初期治療における症状別アプローチ



リファレンス: 著者提供

初期治療 (European academy of Allergy and Clinical Immunology ガイドラインより) (参考)



リファレンス: Anaphylaxis: guidelines from the European Academy of Allergy and Clinical Immunology. / 雑誌名: Allergy. 2014 Aug;69(8):1026-45. doi: 10.1111/all.12437. Epub 2014 Jun 9. / PMID 24909803

症状出現時の薬物療法

【重症度分類に基づくアドレナリン筋肉注射の適応】

- ▶ グレード3
- ▶ グレード2でも下記の場合は投与を考慮
 - ・過去の重篤なアナフィラキシーの既往がある場合
 - ・症状の進行が激的な場合
 - ・循環器症状を認める場合
 - ・呼吸器症状で気管支拡張薬の吸入でも効果がない場合

適応なし

適応あり

▶ 各臓器の治療を行う
▶ 症状の増悪が見られたり、改善が見られない場合にはアドレナリンの投与を考慮する

各臓器の治療

【皮膚症状】

- ・ヒスタミンH₁受容体拮抗薬の内服

【呼吸器症状】

- ・β₂刺激薬の吸入
- ・必要により酸素投与
- ・効果が不十分であればβ₂刺激薬の反復吸入

【消化器症状】

- ・経口摂取が困難な場合は補液

アドレナリン筋肉注射

注射部位：大腿部中央の前外側部
アドレナリン 規格：1 mg/mL
投与量：0.01 mL/kg(0.01 mg/kg)
1回最大量：12歳以上 0.5 mL(0.5 mg)、
12歳未満 0.3 mL(0.3 mg)

- ・高濃度酸素投与(リザーバー付マスクで10 L/分)
- ・臥位、両下肢を30cm程挙上させる
- ・急速補液(生食もしくはリンゲル液などの等張液)
10 mL/kgを5~10分の間に投与

追加治療として、副腎皮質ステロイド(ステロイド薬)の内服・静脈注射を考慮する

(内服)

プレドニゾン*	1 mg/kg
デキサメタゾンエリキシル	0.1 mg/kg(1 mL/kg)

(静脈注射)

ハイドロコルチゾン	5~10 mg/kg
プレドニゾン*、 メチルプレドニゾン	1 mg/kg

*：プレドニゾンは最大量60 mg/日を超えない

再評価 5~15分

- ・安定していれば各臓器の治療を行う
- ・症状が改善しない場合
アドレナリン筋肉注射
急速補液 同量を再投与

治療に反応せず、血圧上昇が得られない場合

- ・アドレナリン持続静注 0.1~1 μg/kg/分
(0.1 μg/kg/分より開始し、反応をみながら増量)
- ・呼吸状態が不安定な場合は気管内挿管を考慮

〈アドレナリン持続静注薬の調整方法〉
体重(kg)×0.06 mLを生理食塩水で計20 mLとすると2 mL/時で0.1 μg/kg/分となる

		グレード1(軽症)	グレード2(中等症)	グレード3(重症)
皮膚・粘膜 症状	紅斑・蕁麻疹・膨疹	部分的	全身性	←
	掻痒	軽い掻痒(自制内)	強い掻痒(自制外)	←
	口唇、眼瞼膨張	部分的	顔全体の腫れ	←
消化器症状	口腔内、咽頭違和感	口、のどのかゆみ、違和感	咽頭痛	←
	腹痛	弱い腰痛	強い腹痛(自制内)	持続する強い腹痛(自制外)
	嘔吐・下痢	嘔気、単回の嘔吐・下痢	複数回の嘔吐・下痢	繰り返す嘔吐・便失禁
呼吸器症状	咳嗽、鼻汁、鼻閉、くしゃみ	間欠的な咳嗽、鼻汁、鼻閉、くしゃみ	断続的な咳嗽	持続する強い咳込み、犬吠様咳嗽
	喘鳴、呼吸困難	—	聴診上の喘鳴、軽い息苦しさ	明らかな喘鳴、呼吸困難、チアノーゼ、呼吸停止、 $SPO_2 \leq 92\%$ 、締め付けられる間隔、嘎声、嚥下困難
循環器症状	脈拍、血圧	—	頻脈(+15回/分)、血圧軽度低下、蒼白	不整脈、血圧低下、重度徐脈、心停止
神経症状	意識状態	元気がない	眠気、軽度頭痛、恐怖感	ぐったり、不穏、失禁、意識消失